

『松前町 橋梁長寿命化修繕計画』

平成24年3月

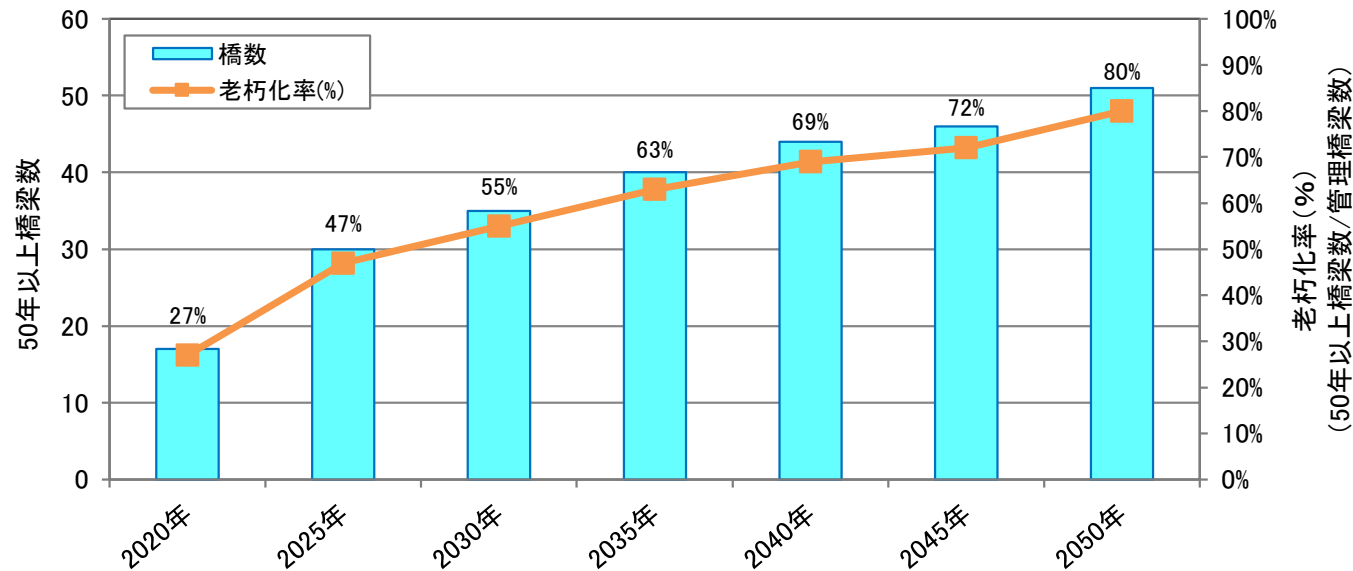
(令和2年12月 第1回改定)

(令和3年11月 第2回改定)

 松前町建設課

1. 長寿命化修繕計画の目的

- 松前町が管理する64橋のうち、建設後50年を経過している“高齢化”橋梁は現在27%ですが、20年後には、約7割を占め、急速に橋梁の老朽化が進みます。
- 今後、増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに関する経費に対し、可能な限りのコスト縮減への取組みが不可欠です。

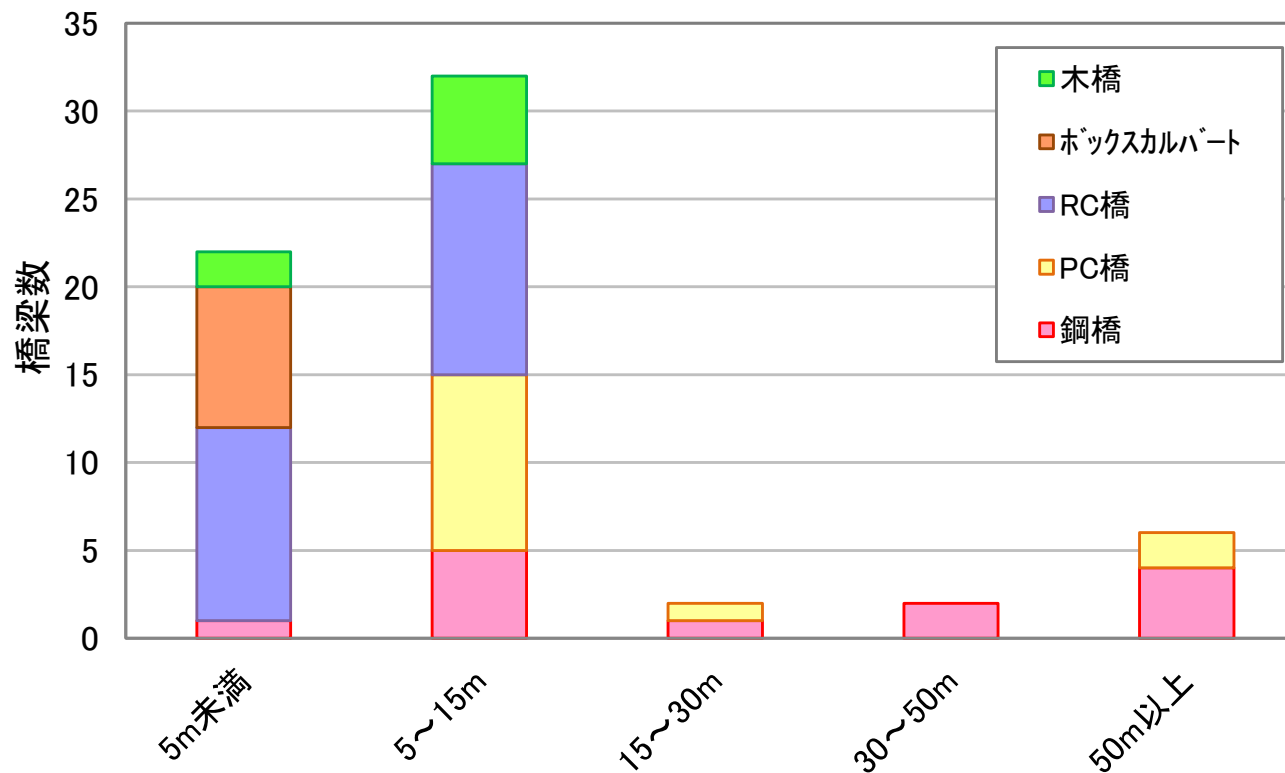


建設後50年以上の橋梁数の推移

このような背景から、橋梁の長寿命化と修繕・架替えに係る費用を縮減するとともに、道路の安全・安心を確保するため、長寿命化修繕計画を策定します。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

長寿命化修繕計画の対象橋梁は64橋あり、市街地の小河川に架かる橋梁が多く、橋長15m未満の橋梁が8割以上を占めている。橋種としては『木橋・ボックスカルバート・RC橋』は全て橋長15m未満です。橋長15m以上のものは主に鋼橋や比較的新しい橋(平成以降に架設された橋)になります。



橋長区分別の橋梁数

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

◆ 橋梁の健全度の把握

- 点検マニュアルに基づき、定期点検(5年に1回)を実施し、橋の健全度を定期的に把握します。
- 点検および修繕した結果は、点検帳票等に記入し、電子データを随時更新することで、損傷状況などのデータ蓄積を図ります。

◆ 維持管理の取組み

- 損傷に対する日常の対応が橋梁の長寿命化を推進するうえで有効であり、比較的容易に対応が可能なものは日常の維持作業において実施します。
- 排水柵(はいすいす)の土砂詰まりなどは、滞水・漏水を引き起こし、橋に悪影響を与える事から、日常からこまめな維持管理に努めます。

4. 修繕・架替えに係る費用の縮減に関する方針

- 損傷が深刻化してから対応する事後保全型の管理から、損傷が軽微なうちに対応する**予防保全型**の管理へ転換し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

（※ライフサイクルコストとは、建設費用や補修費用など、施設の耐用年数の期間内に投入する総費用のことです。）

- 橋梁点検により把握した健全度に基づき、損傷に対する診断・劣化予測を行い、最適な時期に修繕を実施することにより、事業費の大規模化を回避します。
- 費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる**新技術**を積極的に活用する。

5. 修繕対象橋梁

本計画は2021～2030年(令和3年～12年)の10年間を対象とし、この期間に修繕を行う対象橋梁は11橋の予定です。

また、撤去を行う対象橋梁が1橋の予定です。

【修繕対象橋梁(11橋)】

富元橋、鳥井橋、寺の沢橋、元橋、元3号橋、新唐津内沢橋、観桜橋、旭橋、新坂橋、小柳橋、神明橋

【撤去対象橋梁(1橋)】

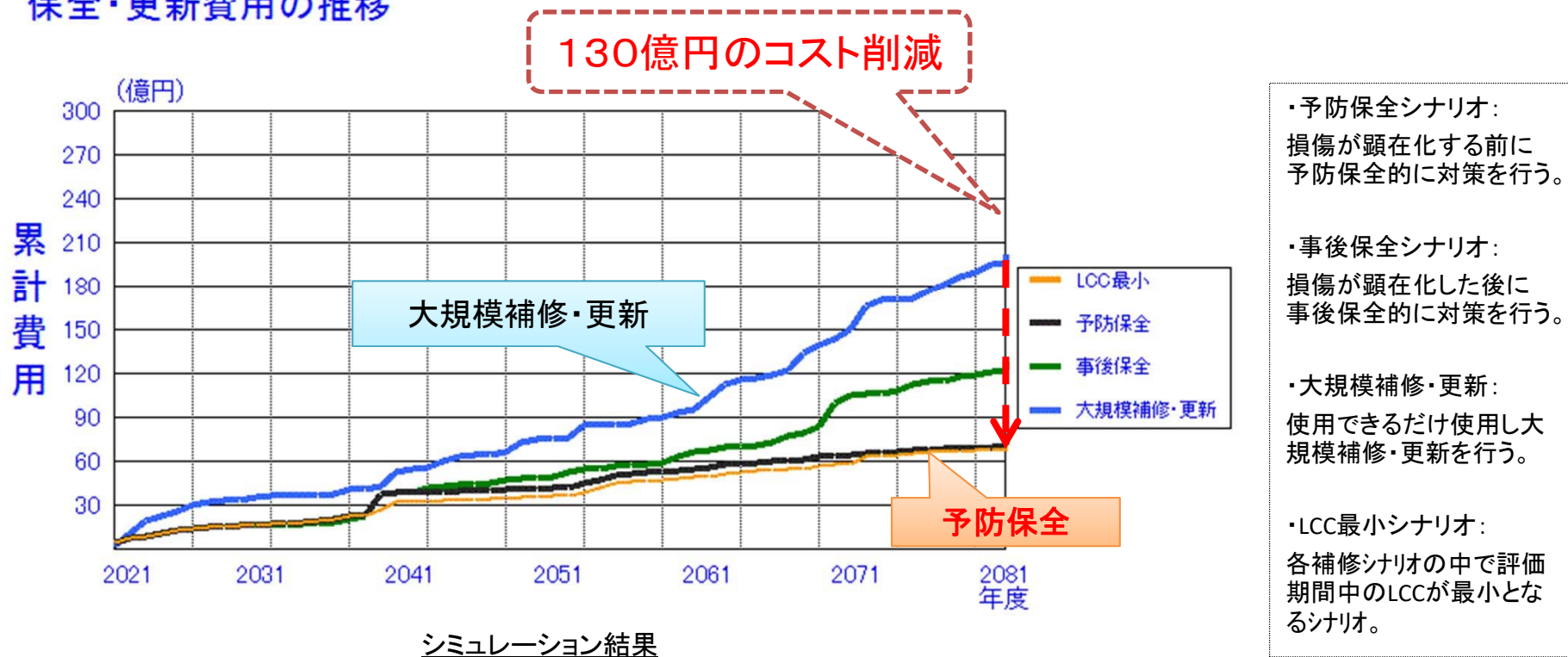
大沢1号橋

※次回定期点検(令和6年実施予定)で上記橋梁の他に修繕対象の橋梁が新しく発見された場合は再度計画を策定し、以後10年間の修繕対象橋梁を設定する。

6. 長寿命化修繕計画による効果

今後60年間の橋梁保全更新費用のシミュレーションの結果、大規模補修・更新では、累計費用が約198億円程度、予防保全では約68億円程度であり、予防保全によるコスト削減効果は約130億円程度が見込まれます。

保全・更新費用の推移



※この計画により算定された費用は、今後、点検や修繕を実施していく過程で見直す可能性があることから確定しているものではなく、将来の予算を担保するものではありません。